

# 架け橋

KAKEHASHI

非特定営利活動法人

## ITC中部

<https://itc-chubu.sakura.ne.jp/>

### 巻頭言

コミュニケーション委員長の吉田です。今回、広報誌の巻頭言への寄稿を仰せつかりました。我々 IT コーディネータの使命の全うのため ITC 中部の役割のなかでのコミュニケーション委員会の活動について述べさせていただきたいと思

活躍は我が国の企業経営の発展にとって非常に重要な要素になるというものであります。

一方、ITC 中部は IT コーディネータの地方組織として全国トップクラスの規模を有しており、その人材の豊



ITC 中部 吉田 信人

時代は令和となり、AI、IoT、5G など新しい IT 技術の普及はますます加速しており、サイバーフィジカルな産業が現実なものとなりつつあります。その中において我々 IT コーディネータの使命はますます重要になってくることは必然であります。ベンダーとユーザーの架け橋となるべく、わが国の IT 経営の普及発展に寄与する人材の輩出を意図して IT コーディネータ制度が創設され、最初の IT コーディネータが輩出されてから 18 年が経とうとしています。

この間、中小企業を中心に我が国の IT 経営の発展に多くの IT コーディネータの活躍があり、多大な貢献がなされてきました。IT を経営に活用しない企業はほぼゼロと言ってもよい今日であって、IT コーディネータの活躍はまだ限定的であり、IT コーディネータの支援を必要としないながらそれを受けられない企業が大多数であることが現実と思われ

我が国の IT 人材の実態を見てみると、IT 人材の所属企業の業種として、わが国ではその 4 分の 3 の人数がベンダー側企業に所属しているのに対し、ベンダー側以外の企業、すなわちユーザー側に所属しているのは 4 分の 1 という統計データがあります。これはユーザー側の IT 活用力がベンダー側に対して不足していることを示すものである程度の規模以上の企業に限られると想定されますので、経営資源の乏しい中小企業においては IT 活用力が非常に乏しいということが統計的にも明らかになること

これが、欧米アジアなど諸外国ではその割合はベンダー側、ユーザー側でほぼ逆転します。つまり、ユーザー側の方がベンダー側よりも IT 人材が豊富という状況です。企業活動の生産性、革新性の確保、増進において、IT の活用が不可欠の現状において、国際競争力の維持の面でも、ユーザー側の IT 活用向上が必要不可欠な条件であると言えます。その意味でユーザー側に立つべき我々 IT コーディネータの

富さにおいて全国的にも有数の組織であります。昨年 2019 年度よりその組織において従来のブランドデザイン委員会と広報委員会を統合し、コミュニケーション委員会としてスタートいたしました。旧ブランドデザイン委員会はホームページを中心としたネットメディアの活動でした。旧広報委員会は本広報誌を中心とした紙メディアの活動でした。メディアの違いながら会員間および会員外への広報活動という観点では両委員会は同じ目的のものであり、この二つ委員会を統合し、紙とネットを融合しそれぞれの委員会のノウハウのシナジーを発揮することを目指し二つの委員会が統合されました。具体的には ITC 中部会員間の情報共有は今後も充実したものにして、ユーザー企業の IT 活用支援に寄与に関係する ITC 中部の活動、会員の活躍事例の紹介を今一層充実されることを志向します。ITC 中部会員諸氏がより一層ユーザー企業への支援を充実することへ貢献できる内容を目指してまいります。言い換えれば、ITC 中部会員諸氏がより一層顧客を獲得するための、会員間、会員外とのコミュニケーションの支援を行っていきたくと考えております。

IT コーディネータへの期待に応えるためには、より一層 IT コーディネータが顧客を獲得し、顧客の IT 経営の高度化に貢献しなければなりません。コミュニケーション委員会は、ITC 中部が名実共に全国トップの IT コーディネータ組織になるべくその力を結集し、広く顧客への情報発信をしていきたくと考えております。会員諸氏のご支援、ご協力をお願いいたします。

(ITC 中部理事、コミュニケーション委員長 吉田 信人)

### 特集<ITC中部注目行事>



### 目次

巻頭言 1

特集「ITC中部注目行事」  
あるあるCIOゲーム 2

愛知県IoT  
人材育成支援講座 3

広島交流会 報告 4

(株)イマオコーポレーション訪問  
・モンキーパーク訪問 報告 4

賀詞交歓会の報告 4

事務局だより 4

### 広島交流会 報告

2019 年 10 月 19 日、ITC 中部と ITC 広島の交流会を、中四国マネジメントシステム推進機構交流室で開催しました。ITC 中部の申し出に快く応じて下さった、ITC 広島の児玉学理事長及び広島メンバーの方々により感謝申し上げます。ITC 広島では、「第 37 回定期セミナー、ITC 中部との連携セミナー」という位置づけで開催して、双方の大変有意義なセミナー開催となりました。

開会挨拶は両理事長。前半に ITC 中部から 2 つのテーマ報告。①山本事務局長から ITC 中部の活動報告、②秋山理事長から「Office 365 で現場改善 - 月額 500 円で気軽に始められる Office365 の活用方法」を紹介。後半は、①ITC 広島の活動報告について、児玉理事長、②事例報告は、「支援機関 × ITC 支援者 × IT ベンダー 3 者連携で実現した K 建設の IT 経営支援事例発表」。

セミナー後は ITC 広島が設営下さった、懇親会が「ザ・広島カーブ」一色の居酒屋で行われました。ドラゴンズファンが乗り込みましたが、乱闘とはならず、ノーサイドゲームの様に紳士的交流会となりました。さらに、翌日は任意参加で、広島平和記念資料館や厳島神社参拝をして広島を堪能しました。

(ITC 中部 井上 新)

ITC 中部・ITC 広島  
交流会記念写真▶



### (株)イマオコーポレーション訪問・モンキーパーク訪問 報告

BizUp 委員会では、企業経営、および、IT 利活用事例を学ぶため、本年度、2 つの企業を訪問致しましたのでご報告します。

■株式会社イマオコーポレーション様 (2019 年 9 月 13 日)  
工場での「機械設備監視システム (ファクトリーステーション)」を利用した工程・稼働状況の「見える化」の推進、ここから得られた生産データを分析した改善活動による工場利益率の向上など、IT / IoT を活用した事例をご紹介頂きました。

改善活動が現場に根付いており、従業員の方が誇りを持って働いている姿が印象的でした。また、企業訪問後には小瀬鵜飼エリアを観光致しました。

■日本モンキーパーク様 (2019 年 11 月 30 日)  
日本モンキーパークの所長様、総務課長様より「同一労働同一賃金の改正法への対応」、「イベント管理・契約管理について」について

ご講演頂きました。テーマパーク内の見学後、参加者全員でのワークショップを実施し講演内容やテーマパーク見学での気づき等を意見交換しました。

最後になりましたが、今回ご協力頂いたイマオコーポレーション・モンキーパークの関係者の皆様、小瀬観光ガイドの土屋様、参加頂いた皆様にはありがとうございました。

(ITC 中部 角谷 篤)

モンキーパークでの  
記念写真▶



### 賀詞交歓会の報告

本年もよろしくお願致します。コミュニケーション委員会の高橋です。本年は 33 名の方に参加頂きました。

今年度は多くの独立系 ITC の方に参加頂きました。多くの方が、企業内 ITC としてキャリアを構築し、満を持して独立 & 法人化と活躍の場所を広げている様です。ユーザー企業やベンダー企業の方との有意義な名刺交換もあった様です。毎年恒例となった、参加者への豪華景品は今年も健在！高級酒や電化製品などの豪華景品が飛び交いました。

来年の賀詞交歓会も 1 月第 3 土曜日あたりを予定となります。皆様のご参加をお待ちしております。(ITC 中部 高橋 浩史)

令和 2 年賀詞交歓会の様子▶



### 事務局だより

小中学生に 1 人 1 台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGA スクール構想の実現」に、2318 億円を計上する 2019 年度補正予算が成立しました。本来ならば、各自治体の教育委員会で、何のためにするのか？(目的) や何をするのか？(手段)

をしっかりと検討してから、実現できればいいのですが、機器購入、構築ありきのスピード感で進められています。それでも IT 化が遅れている日本の教育が変わる一石になればいいと思います。いまから IT コーディネータの出番です。(ITC 中部 事務局 山本憲司)

NPO法人・ITC中部広報誌第34号 令和2年3月31日 発行

発行：NPO法人・ITC中部コミュニケーション委員会

〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6 NSC内

発行責任者：NPO法人・ITC中部 理事長 秋山 剛 編集責任者：NPO法人・ITC中部 コミュニケーション委員長 吉田 信人

Webサイト (<https://itc-chubu.sakura.ne.jp/>)

## 特集「ITC中部注目行事」

### あるあるCIOゲーム

#### ◆あるある CIO とは

あるある CIO とは、楽しみながら IT 経営を学べるビジネスゲームです。IT や IT 経営の前提知識なしに、ゲームを進める中で自然と IT 経営に関する基本的な考え方を学び、気づきを得ることができます。

「IT をもっと活用したい」と考える中小企業が全国で増加しています。しかし、その入り口は、セミナーや書籍、相談窓口などで少々堅苦しさがあり、気軽に取り組みにくい「見えない壁」が存在しています。そこで、IT に気軽に触れてもらい、IT による経営課題解決に一步を踏み出してもらうためのコンテンツです。

ゲームを通じて学べるポイントは3つです。

①IT 導入に際し、経営課題に基づいて IT の活用方針を整理することの重要性を学びます。

②効果的に IT を活用するために、「IT 経営レベル」を上げるコツを学びます。(IT 導入の前段階での備えや導入後のトラブルなど、IT 経営にまつわる「あるある」話を盛り込んでいます)

③IT 投資がどのように顧客への価値提供や業務効率化に役立つのかを学びます。(売上・顧客満足度・従業員満足度で計測)

#### ◆ゲームの内容

74 マス、5 ステージのメインルートと、3 カ所の迂回路で構成されています。サイコロをふって出た目の数進み、各マスの「インシデント(出来事)」に従います。プレイヤーは、地域密着の企業向け仕出し弁当製造業「グルメ亭」の CIO として、経営課題を解決するための IT 投資を行って、会社を成長させていきます。

既に信金の社内研修や中小機構の社員向け研修、商工会議所などで研修ツールとして活用されています。また、コンサルティング契約先、9 回の支援のうち、7 回目が終わった時点でビジネスゲームを実施し、振り返りと今後の IT 活用について考えるきっかけとしても利用しています。

#### ◆参加者の感想

意外に「手順」があるんだと思った。アンケートをとって事後確認する、セキュリティ面で後々痛い目にあいそうだ、など IT 導入の前後でやるべきことが色々あることが分かった。IT はパッと買ってきて使い始めるだけのものではないと理解した。現在あるシステムをまさに導入している渦中であるが、IT の初期導入に対して認識が不足していた点があった。そういえばこういう手順を踏んだかなと、考えた。

これまで社内で IT 導入してきているが、それはほぼ「困っているとき」が多かった。ゲームで体感したような準備ができていないケースがあることに気づいた。セキュリティなどのリスクも、やってみなければわからないことが多く、ゲームを通じて文字面だけだったとしても経験できるとよいと思った。

セキュリティのリスクもそうだが、IT 投資の成果としてどんな良いこと=リターンがあるのか、がゲーム終盤で具体的に解説されているのでわかるのが良かった。各システムそれぞれにどういうリターンがあるのか、別途一覧で学びたいと感じた。

何回かゲームをやれば、IT 活用のフローと考え方がもっと身に着くかもしれない。テーマも 4 つあるし、出席者を



▲あるある CIO ゲーム

変えてやっても良さそう。コマの進みが遅かったが、その分 IT 経営レベルや顧客・従業員の満足度が底上げできて、点数につながった。どのような IT を導入するといった経営に繋がるかということがゲームを通じて理解できた。

手持ちの現金は結果的にマイナスとなった。しかし、IT 投資をすることによって、顧客満足度が上がっていく部分でやはり設備投資は重要であるということがわかった。また、顧客満足度だけでなく、従業員満足度もしっかり高める活動をしている企業が成長するのだと感じた。

経営課題に対して、想定した解決のために導入すべき IT ソリューションが、最終的に正しかったというのが自信になった。今後、お客様の経営課題に対して、IT を活用して課題解決の支援をするという具体的な営業活動につなげていきたい。

「IT のリスクもしっかり学ぼう」の部分でマイナスのマス目に止まるが多かった。IT 投資に関して、プラスの投資だけを考えがちだが、セキュリティ対策等リスクを回避するための投資も重要なんだと改めて実感できた。

企業の各部門や業務ごとに適した IT ソリューションが用意されていることがわかった。そして、その IT ソリューションを導入し、効果を出すためには、企業がどのような経営課題があるのかをきちんと把握することが重要。また、IT 導入にあたっては IT 経営レベルや IT に関する知識も必要である。IT 導入補助金も実施されているが、費用に関して具体的にどれくらいかかるのかも知りたい。

#### ◆ゲームを体感する効果

以上が参加者の感想であり、IT 経営を体感出来ていることが伺える。また、ファシリテーターとして参加しても毎回新たな気づきがある。ある程度 IT プロジェクト経験のあるメンバーであっても、いや、であるからこそかもしれないが、ゲームを通じて自分たちのこれまでの経験に不足していた観念に気づく。

あるある CIO は、IT の前提知識なしに、ゲームを進める中で自然と IT 経営に関する基本的な考え方を学び、気づきを得ることができるビジネスゲームです。中小企業にとっては少々とつきにくい IT ですが、ビジネスゲームで学べば興味と行動を喚起されます。「IT 経営レベル」を上げていくことで、顧客と従業員満足度向上に繋がることが体感できます。頭ではなく心で感じることでより効果的な学びを得る。

(ITC 中部 安藤 祐)

### 愛知県 IoT 人材育成支援講座

昨年の 6 月に受託し本年 2 月までの事業「愛知県 IoT 人材育成支援事業」についてご報告いたします。当事業は「愛知県のモノづくりにおいて、労働人口減少等の喫緊課題を解決し、生産性を向上させる手段の一つとして、IoT の利活用を推進できる「企業内 IoT 人材の育成」を目的としております。委託業務は以下の 3 点です。

#### 1. 委託業務

##### (1) カリキュラムの作成

- ・座学と実習を組み合わせた内容とし、計 18 時間以上の講座とする。日数は 6 日間程度。
- ・実機を用いた IoT デバイスが体験できる実習。
- ・IoT 導入現場を見学し実際の活用方法学び、自社の IoT 導入を身近なものにする。
- ・自社の課題を明確にし、解決方法を IoT 導入計画としてまとめ発表。

##### (2) 講座開催の周知

- ・チラシの作成。Web 等を活用し広く PR する。

##### (3) テキストの作成

- ・テキストの作成。初心者にも理解できるものとする。実習についても同様。

#### 2. 上記の要求事項に対し下記提案を行い承認を得ました。

##### (1) カリキュラム

- ・座学・8 時間、実習 12 時間、企業見学 1 日、発表 4 時間
- ・実習・RaspberryPi3、Python を用いセンシング技術の習得
- ・企業見学・安城市の高木金型製作様、武豊町の日進工業様
- ・自社の IoT 取組計画立案、発表

##### (2) 講座開催の周知

- ・チラシ作成 県内商工会議所、企業配布、ITC 中部、ITCA ホームページに掲載

##### (3) テキスト

- ・座学テキスト、Raspberry 説明書、実習テキストの作成

#### 3. 研修の状況

##### (1) 座学

多くの基礎的な技術を説明し、「IoT って簡単だな」、「こんなところで使われているのか」というように研修生にとって「簡単・早く・安価に導入できるもの」という意識を植え付けることを主眼に実施しました。そして自社に戻った時に挑戦できるよう、できるだけ多くの事例を説明しました。

##### (2) 実習

個人で完成を目指しますが、実習期間中、助け合いができるよう、研修生を 3 グループに分け実施しました。3 つの演習を 12 課題に分け、複雑な部分であっても、理解し易くするために、複雑さを手順の単純化で補うよう工夫し、全員が完成できるようにしました。

・演習 1: LED・スイッチ(デジタル入出力)について「Raspberry P1 を使う理由・Python とは・機器設定」の演習、4 課題

・演習 2: センサー・A/D コンバーター(アナログ入力)について「可変抵抗と接続」、「光センサーと接続」、外部 PC との連携の演習、4 課題

・演習 3: 産業利用について「温湿度センサーと接続」「PC 表示」、「プログラム自動起動」の演習、4 課題



##### (3) 企業見学

安城市の高木金型製作様と武豊町の日進工業様を訪問。見学後、高木金型製作様は高木社長がフリーディスカッション形式での講演、日進工業様では武豊工場長がシステムと IoT について説明をしていただき大変盛り上がり、勉強になりました。

##### (4) 自社 IoT 推進発表

SWOT 分析にて自社の内部環境と自社を取り巻く外部環境から、今後推進すべき自社の IT 化の一部としての IoT 導入について発表。研修生は自社の課題と目指すべき方向をこの研修期間で計画立案し、自分の思いと社内の上位への説得資料(案)を基に発表した。この計画について、支援が必要な企業については、ご支援していきます。

#### 4. 研修の評価

終了アンケートにて全 11 項目を 5 段階にて評価をして頂いた。初めての取り組みとしては高評価を得たと思っています。

	評価項目	評点
1	研修の理解度	4.2
2	研修の運営に対する評価	4.0
3	各研修に対する評価 (座学、実習、企業見学)	4.3
4	研修個別項目 (教材、話し方、時間、研修項目)	4.1
5	期待感(知識、現場活用)	3.8
	平均	4.0

#### ■最後に

この研修は 2 つ評価される点があると思います。1 つはどれだけ「企業内 IoT 人材の育成」ができたか、2 つ目はどれだけ愛知県の「仕様書と提案した企画書に沿った運営ができたか」です。この 2 つが ITC 中部に対する評価です。メンバー一同、更に IT を通じて社会貢献する活動をしていき、ITC 中部の名声を高めていきたいと思っています。以上  
メンバー: 水口副理事長、土屋守、林光邦、後藤勝彦、安藤祐、清水亮介、サポート: 秋山理事長、ITCA 山崎課長

(ITC 中部 土屋 守)